

小説 第4次産業革命 日本の製造業を救え!



- 横浜市の中堅部品メーカー、ケイテックは、ホシダ技研の次期モデルの受注を逃してしまふ。それに追い打ちをかけた「事件」が起きる。
- 次世代エンジンに使用する新しい技術をもつケイテックに目をつけたドイツの世界的な自動車部品メーカー、ボルツ社から大型商談が舞い込んだのだ。ケイテックは念願の世界進出と意気込むが、調達前の「資格審査」で落選してしまふ。生産管理システムが弱点として指摘された。
- 二度にわたる大きなダメージに、ケイテック二代目社長・藤堂敬介は、大学時代のラグビー仲間である産業用システムインテグレーター（SIer）KWエンジニアリング社長・河島健一に相談する。
- そこで第4次産業革命という日本の製造業の基盤を揺るがす世界的な潮流に目を開かされる。藤堂は、世界的なメーカーの生産ラインを手がける福岡市の浦田機工・浦田理恵社長にも助けを求めた。
- ケイテックをデジタル化・サービス化を梃子に大改革する藤堂敬介の果敢な挑戦が始まる。

●元SAPジャパン古澤氏コラム 2019-05-06 小説 第4次産業革命 日本の製造業を救え!

「まず、読むべし、必ず」、「本書が「荒唐無稽」「現場を知らないから書けるんだろう」と感じられる方は、その考えを疑ったほうが良いかもしれぬ」、「危機感の乏しい日本企業に対するはがゆさ」

<https://furusawa2.hatenadiary.org/entry/2019/05/06/003016>

●慶応大 坂井教授の紹介コラム（読売新聞の書評）

「カンや経験による暗黙知は、便利なものである。生産現場では、職人のカンや熟練のマネジャーの経験から、おおよその生産計画を立てられたりもする。しかし、それは綿密なものではないし、他者に理由を説明できるものでもない。もはやそれでは世界に通用しないというのが、第4次産業革命が起こした変化である。本書はその変化と、変化に対応する歩みとを、小説のかたちでえがく。」

<https://www.yomiuri.co.jp/culture/book/review/20190508-OYT8T50039/>

●あるコンサルタントのブログ

「とても分かりやすくまとめられていて、また小説調で読みやすいのでオススメです。著者は僕と同様、製造業のコンサルをずっとやられている方ですので、業界の知見も豊富で技術にも精通されている。」

<https://t14764.hatenablog.com/entry/Industry4.0>

●Amazonコメント全般【★4.4 / 48件】

・「デジタルトランスフォーメーションを解説している書物はいろいろあり、ネットで検索しても無料で沢山の情報は得られるが、いまいち腹落ちしなかった。この本は日本の中小企業の“ものづくりの本質”を鋭く突き、DXとは何かを物語に仕立てることで、読者に分かり易く伝えていることが素晴らしい。」

・「どことなく池井戸潤の小説に似ている。主人公が冒頭で「第4次産業革命なんて大げさだ」とつぶやくが、なかなか示唆に富んだセリフ。日本の製造業の多くの担当者が同じことを思っているのではないか。物語が進むに連れ、その認識が誤りと主人公と共に段々と見えてくる仕掛け。」